気仙沼地域漁業復興プロジェクト

宮城県気仙沼市

事業実施者：気仙沼遠洋漁業協同組合

使用船舶名：第2成漁丸、第1東洋丸、第17福洋丸、第51喜福丸
第31幸栄丸、第17新栄丸、第28新徳丸、第37金栄丸
第27千代丸、第8福洋丸、第77祐喜丸、第18大崎丸
第36大和丸、第11八幡丸、第17幸新丸、第55盛漁丸、
第81大喜丸（119～149トン）

支援期間：平成24年4月1日～平成27年4月28日

（近海まぐろ延縄漁業）

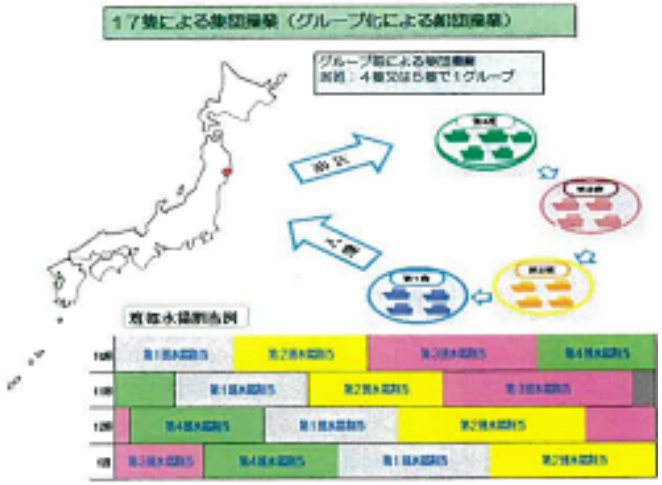
（取組の内容）

●集団操業への転換：17隻の集団操業と計画的な水揚により、供給と販売価格の安定化を目指す

●省燃油化：航海日数の短縮による積荷の軽量化と往復航行時の低速化による燃油消費量の削減

●漁獲物の高鮮度化：短期航海、処理基準のルール化及び滅菌海水装置の導入による高鮮度化

●付加価値向上：各種イベント参加等による認知度向上と未利用部位の活用



（事業の成果）

●集団操業を実施し、計画的に周年にわたり週3回水揚げした。

●燃油消費量（534 kl/隻）は、3年目に計画（541kl/隻）を7kl/隻下回る結果となった(削減目標を達成)。

●1航海の平均日数（34.5日）は、計画（36.0日）より1.5日短縮された。漁獲物の処理基準の統一により漁獲物の鮮度が向上し、メカジキの平均単価は、計画に比べ約6%(830円/kg ⇒ 880円/kg)向上した。

●メカジキの背びれの肉部分（通称：ハーモニカ）を商品化し、好評を得ている。
少量のサメの内蔵をフカホルモンとして加工し、気仙沼市内の飲食店に試験的に提供し、商材化に取り組んでいる。